

問題点

停電・断水

対応策

<分包機問題>

- ・手分包できるようにする
- ・チャック付きパックを用意したり、薬包紙を常備
- ・自家発電や太陽光パネルを設置
- ・代用薬に変更（散剤→水剤や錠剤へなど）
- ・ハイブリッドカーからの充電

<レセコン・電子薬歴問題>

手計算できるようにしておく

- ・自薬局の在庫表を印刷しておき、薬価等が一覧で分かるようにしておく
- ・レセコンが使えずに薬を渡した場合、会計は後日とし、薬の受け取り証明書を利用し対応
- ・薬歴がなく今までの服用薬が不明→お薬手帳の活用を日頃から啓蒙(患者の意識を高める)
- ・非常用持ち出し袋に薬情を入れる習慣を身に付けてもらう
- ・薬歴の保管を誕生日順などにして探しやすくする
- ・電子のみでなく紙媒体でも保管
- ・充電で利用できるPCを準備しデータが共有できるようにしておく
- ・お薬の見本、写真などを用意しておき、服用しているお薬がわかるようにする
- ・レセコンのバックアップの方法を全従業員が把握しておく

<電子天秤>

- ・電池式キッチンスケール(0.1g～計量可能)を常備しておく
- ・大匙小匙すりきり一杯が、各薬剤何gなのかを把握しておく
- ・抗生剤など1g分包規格品を活用する

<冷却装置>

冷所保管医薬品のためにクーラーボックスを使う

<照明>

防水懐中電灯を常備

- ・アロマキャンドルなどを活用し、暗くても患者さんに不快感を与えないようにする

<断水>

精製水を常に備蓄

- ・ポリタンクの常備(器具洗浄に使用するのに多めにいる)
- ・浄水装置の設置

<浸水>

水害時は浸水を防ぐために土嚢を用意(水を吸うと膨らむタイプなどがある)

- ・PC本体が浸水しないように、少し床からあげた状態で設置しておく

B

災害時における各薬局の対応

問題点

通信麻痺

対応策

- ・一般電話が使えない場合、災害伝言ダイヤルを活用する
- ・スマートフォンなどのアプリを活用して連絡手段とする(ツイッター・SNS・フェイスブックなども該当)
- ・携帯電話が充電できるように手動充電器を用意しておく
- ・門前医師との連絡が取れない→事前に災害時の連絡方法を話し合っておく

B

災害時における各薬局の対応

問題点

職能

対応策

- ・薬剤師であるという証明できるものを携帯できないか？
- ・日頃から常に自己研鑽・生涯学習に勤しみ、代替品・OTCへの対応、また病態把握、適正な薬剤師使用が緊急時でもできるようなジェラリストな薬剤師を目指す
- ・社内研修を充実させる
- ・積極的に研修を受ける
- ・プロフェッショナルスタンダードを活用し、自己学習を継続させる

問題点

物流麻痺

対応策

<医薬品の不足>

- ・銘柄指定でなく一般名での処方にしてもらう
- ・ジェネリック医薬品の活用
- ・緊急用の医薬品備蓄を薬剤師会でしておく
- ・近隣薬局の主要取扱品目を近隣で把握しておき、不足が生じたら随時連絡して分譲ができるようにしておく(薬局間で在庫情報を共有する)
- ・医薬品の入手のための移動に自転車を活用
- ・医療用医薬品の代わりにOTCで対応
- ・地理的条件で災害が起こりにくい薬局を薬剤師会で把握し、拠点薬局とする(災害時には交代制で薬剤師が応援勤務する)
- ・薬剤師会・卸・メーカー・行政が介入し、医薬品不足の場合の事前交渉、取り決めをしておく。
- ・他薬局、卸業者の連絡先をすぐにわかるようにしておく
- ・処方日数制限し、できるだけ多くの患者に薬がいきわたるようにする

<処方箋や薬袋の紙がない>

- ・処方箋の見本を何部か用意しておく
- ・緊急時用レフィル薬袋を用意する(福岡県災害時マニュアルに見本あり)

B

災害時における各薬局の対応

問題点

人材不足

対応策

- ・社内、また近隣薬局との連絡網を作成し、薬剤師やスタッフが常に連絡をとれるようにしておく
- ・携帯メールのアドレスを交換しておく
- ・普段から薬剤師会員同士のコミュニケーションをはかり、困ったときの助け合いができる繋がりを保っておく
 - ・薬局の近くに居住するスタッフを用意しておく
 - ・各薬局でマニュアル作成

B

災害時における各薬局の対応

問題点

その他

対応策

- ・地震でガラス容器などが破損→ポリ容器に変更しておく、薬品棚が倒れないように固定
- ・手書き処方箋が持ち込まれた場合、それが本物なのかどうかの確認→医師会や行政との事前確認が必要
- ・過去にあった災害時に現場ではどのように対応して難を逃れたのか、事例集などが欲しい
- ・法的問題にどう対応するかある程度決めておく(処方箋の統一、保険の適応、支払方法etc)
- ・消火器を常備しておく
- ・日頃から薬局近隣の一般の方ともコミュニケーションをはかり、薬局スタッフがいないときに自然災害が発生した場合にも、手助けしあうことができるような信頼関係を築いておく